

# 自分だけが残れば仲間を蹴落せ

## 競争心もあり、労働者の魂ぬき去り、組合の団結をつぶすための「企業人教育」



# 日刊 動労千葉

86. 4. 28

No. 2227

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電二九五五六（公衆）〇四七二二七）〇七

国鉄当局が四月十五日・二四日、募集を強行した「企業人教育」は、すでに明らかにした通り、差別・選別そのものであるだけでなく、労働者の不安をあおりたて、互いに対立・競合させることを狙いとした許しがたいものである。そして教育の内容は、まさにマル生教育そのものである。動労革マルをはじめとする他労組は、これに積極的に対応し、組合員を当局の差別・選別の毒牙の前にさし出し、自ら団結を弱め、なしくずし的に十万人首切り攻撃に屈服せんとしている。われわれは、こんな道をとることはできない。全組合員が一層団結を打ち固め、反撃へつき進もう。

### 「応募しなくとも当局が「指名」!

動労千葉は「『企業人教育』は、差別・選別をおおるものであり、直ちに中止すべきである」として、その具体的内容の解明を求めると共に、団体交渉を強く要求してきた。

当局は、要員問題など重大な労働条件を伴う同教育について、「団交事案ではない」と交渉を拒否し、「説明である」として強行してきた。「説明の中で明らかになったことは、①人材教育の観点から勤務成績を参考にするので、全員対象にはできない。②教育終了後、具体的成果（教育効果）があらわれねば評価しない。③教育に伴う要員関係については、助勤・年休の時期変更権に対応する。④応募の際の動機も選別の材料であること。⑤当局が必要と認めた人については、応募しなくとも「指名」することができる、等であった。

### 身も心も当局に売りわたせとせまる「企業人教育」

まさに狙いが見え見えである。当局が必要と認めた者は、「応募の有無にかかわらず指名」ということは、あらかじめ当局に選別リストがあるということ。希望を募るということは、労働者の幻想をあおりたて、当局の意のままになる者を増やす手段だということである。

それが証拠に、これまで通常の教育の

募集については、書かせなかった「動機」を書かせ、この動機も重要な選別の材料とすると言っていること（考え方の傾向のチェック）。何よりも、「教育を受けたからと言って、それだけではダメだ。具体的成果（非番・公休・家へ帰ってからも増収活動を行う等）をあげなければ評価しない（残れない）」と言っていることに明らかだ。

### 要するに、身も心も当局に売りわたせ 労働運動解体 Ⅱ 十万人首切り粉碎

そもそも「七万人（一般職員四万五千人）」というのがいやらしい。人数をしぼり、教育を受けた者も、受けなかった者も含め、より一層・競争をおおりにたて、当局の意のままにポロポロになるまでこき使ったあげく、改めて選別することを狙っている。そして当局は、この過程で労働運動を完全につぶそうというのだ。

当局の現在の攻撃は、企業人教育、広域配転をはじめ、全て労働者の分断、労働運動解体の攻撃である。この攻撃に屈した瞬間に十万人首切りを認めることになつてしまう。

われわれは、本当に生活と権利を守るためにこそ団結を打ち固め、この攻撃をはね返し、関連法案阻止、「61・11ダイ改」阻止、「62・4・1」阻止へつき進もうではないか。